

No.1

2005年5月発行

# 淀川水系 流域委員会

木津川上流部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

## CONTENTS

- 第1回木津川上流部会の内容…………… P. 1
- 第1回木津川上流部会の説明資料より抜粋…………… P. 3
- 配付資料リスト…………… P. 7
- 木津川上流部会 委員リスト…………… P. 8
- これまで開催された会議等について…………… P. 9
- 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法・ご意見受付…………… P. 10

平成17年4月20日（水）、第1回木津川上流部会が開かれました。



【名張シティホテルにて】

## 第1回木津川上流部会の内容

河川管理者より、審議資料1「河川整備計画進捗状況項目（実施）（調査・検討）」を用いて説明がなされた後、委員との意見交換が行われました。

### 第1回木津川上流部会結果報告

庶務作成

開催日時：2005年4月20日（水） 13：30～16：35

場 所：名張シティホテル 3階 天平・白鳳の間

参加者数：委員11名、河川管理者19名、一般傍聴者111名

#### 1. 決定事項

- ・部会の運営方法や課題等は、河川管理者も閲覧できる委員によるメーリングリスト等を利用して意見交換しながら検討していく。

#### 2. 報告の概要

##### ①第43回運営会議結果報告、テーマ別部会の委員構成について

庶務より、報告資料1「第43回運営会議結果報告」、報告資料2-1「部会委員構成一覧表」、報告資料2-2「部会の委員名簿」を用いて報告がなされた。

#### 3. 審議の概要

##### ①委員会の目的・任務と木津川上流部会の役割の確認、部会の進め方について

- ・各地域部会の固有の問題については、他部会と調整して審議を進めて、委員会で検討・承認するのがよいと思っている。木津川上流部会では、せめて三川合流地点までを検討範囲にしたい。
- ・流域委員会では、水系全体を重視して議論してきた。水系全体を視野に入れて考えるべきだ。
- ・任期2年間で到達目標を委員の共通認識にしておいた方がよい。川上ダムの上流は下流域全体に関わる。流域全体で考えると、地域固有の問題についても検討することが大切だ。
- ・事業の進捗点検では、何をどこまで評価するのか。その結果を今後の河川マネジメントにどのようにフィードバックしていくのか。ある程度統一した見解が必要だ。

##### ②河川整備計画基礎案に基づく事業進捗状況の点検について

河川管理者より、審議資料1「河川整備計画進捗状況項目（実施）（調査・検討）」を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・「調査・検討項目」は、単なる情報収集段階なのか。それとも、すでに効果を確認しながら試行的な実施がなされていて、効果があれば本格的な実施に移行するという段階なのか。
  - 「調査・検討」には幅がある。基礎的な調査もあれば、試行的な実施もある（河川管理者）。
  - 基礎的な調査・検討と試験運用（アダプティブマネジメント）は区別した方がよい。アダプティブマネジメント的な試行では、モニター結果と効果が確認でき、その結果が事業にどのように反映されるのかを確認できる物差しがあればよい。例えば、魚道であれば、どのように検証してモニターするのか、専門的な観点から意見が述べられる方法があればよい。
  - 河川管理者には、事業の評価の方法やその反映の仕方、コストまで含めた時間管理の方法を対象事業の種類毎に出してもらった必要がある。例えば、生物多様性の1年間の試行結果によって、調査検討の期間を延ばすのか延ばさないのか、どの程度のコストと効果があったのかといった情報をどのように提供するのか。河川管理者には整理してほしい。
- ・環境や土砂に関する研究会等があるが、二重に管理している状態で無駄な面もあるのではないかと。
  - 流域委員会では、現地に即した細々としたことにまで意見を言うのは難しいため、現地の方や専門家を交えて検討会や研究会を組織している。ここでの意見交換を踏まえて河川管理者が考えたことを流域委員会に報告するので、ご意見をもらいたい（河川管理者）。
- ・環境22の魚道について、河川環境研究会でどのような検討をしているのか、説明してもらってはどうかと考えている。内容については河川管理者と協議する（部会長）。

#### ③前期委員会からの検討経過報告の確認

部会長より、審議資料2-1～3「木津川上流の課題について」等は、次回以降の部会で河川管理者より説明して頂き、議論をするとの説明がなされた。

#### ④木津川上流部会の課題について：主な意見は以下の通り（例示）。

- ・討議や議論は、全体委員会でやる。地域別部会とテーマ別部会では、全体委員会での議論が円滑にいくように課題を整理し、問題提起をして頂きたい。それを基本としながらも、整備内容シートに記載されている地域的な特性のある事業等について議論・整理してもらい、全体委員会に報告して頂きたいと考えている（委員長）。
- ・木津川上流だけが切り離され、木津川上流部会ができた理由について説明して頂きたい。
  - 前期委員会から「次期委員会の体制は事業進捗点検が主たる任務なので、事務所単位の4部会がよい」という意見を頂き、4部会の設置を委員会に依頼した。相互に関係する事項は、合同部会や委員会等々の工夫をすればよいと考えている（河川管理者）。
- ・ダムについては、地域部会として決を採ることはないだろうが、きっちり議論して頂きたい。
- ・治水に関しては、委員会と河川管理者で意見が違っている。遊水地、岩倉狭の流下能力等については十分な議論が尽くされたとは言えない。傍聴者の関心も高い。部会での検討は避けない方がよい。
- ・地域別部会で水系全体に関する問題（水質、流量管理等）について検討するのは難しい。意志決定が一番近い枠組みの中で議論し、必要なものだけが委員会に反映されるという流れが大切だ。

#### ⑤ワーキンググループ設置の必要性について：WGに関する主な提案は以下の通り（例示）。

- ・住民を巻き込んだ事業進捗点検項目の評価システムを考えるのは大切だが、WGで議論するのはどうか。まずは委員がたたき台を作って有志で検討してもらおう等、委員主導の試行錯誤が必要だ。
- ・地域別部会の議論のたたき台を検討する小グループがあってもよいのではないかと。
  - 木津川は委員数も少ないので部会で議論すればよい。たたき台は部会長・副部会長と庶務が考えればよい。
  - 議論のたたき台は、委員が作成するべきで、委員によるメーリングで意見交換すればよい。

#### 4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者3名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・河川管理者は「調査・検討の間は地元の地域生活に必要な工事や防災上必要な工事以外はしない」としているが、水資源機構は、ダム貯水池の西側の付け替え道路工事に着手。他にも、右岸ダム本体取り付け斜面の森林開発、原石の一次破碎、パッチャープラント用の敷地造成、2カ所の架橋、伊賀市事業「ハーモニーフォレスト計画」が進んでいる。これらがオオタカの餌場を潰し、営巣を邪魔している。委員は水資源機構に工事をやめるよう箴言し、現地視察で現状を見て頂きたい。
  - 生活に必要な道路、防災上特に途中で止めることができない道路として、付け替え県道工事を実施している。この工事によって発生する土を貯水池予定地に仮置きをする事業を進めている。ポーリングは、河川管理者ではないのでコメントしない。ダムサイト近辺での森林伐採は、委員会が発足する以前に事業用地として買収した用地もあるが、森林の所有者が計画的に伐採しているということはあるだろう（河川管理者）。
- ・旧青山町の町から5kmの場所の住民だが、台風シーズンには道路が水路に変わる。こんなことでは、過疎が進むばかりだ。ダム完成に伴う道路をできるだけ早くつけてほしい。猛禽類の保護について意見が出ていたが、猛禽類以外の自然環境も大事だと思っている。
- ・川上ダムを不要としている論文（浅野論文）について、ダムWGのリーダーは「この論文のようにはいかない」と述べたが、その科学的根拠を出して頂きたい。治水については「水政策の転換の方向」と「『近い水』対『遠い水』」という論文（元岡山大学 森滝健一郎氏）に目を通して頂きたい。生態については、オオタカやオオサンショウウオに関する研究の成果が発表されていないので出してほしい。ダムが計画された際には生態学的な検討は全くなされていない。国も研究者もあらためて検討をしなければならない。本当に50年先にダムが必要なのかどうかという点から議論をしたい。
- ・アンケートを持ってきたので、ご協力をお願いしたい。地元を考慮して名張で開催されたのだと思うが、ご意見を頂ければと思っている。本日は、ダムを気にかけてこの会場に来た一般の方も多いと思うが、部会の中でダムについて触れられなかったのは残念。住民の心にも答えるということも必要だ。



## 第1回木津川上流部会の説明資料より抜粋

### ■報告資料1より

第1回木津川上流部会では、報告資料1「第43回運営会議結果報告」を用いて庶務より説明が行われました。以下に、資料より一部を抜粋して掲載いたします。

	第43回運営会議（2005. 3. 30開催）結果報告	2005. 4. 5 庶務発信
開催日時： 場所： 参加者数：	2005年3月30日（水）10:00～13:20 ばるるプラザ 6階 第3会議室 運営会議委員6名（委員長、副委員長、琵琶湖部会長、淀川部会長、木津川上流部会長、猪名川部会長）、河川管理者3名	
検討事項、 決定事項	<p>1. 決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別部会は、カラスマプラザ21において、4月24日（日）に「住民参加」部会が13～15時、「利水・水需要管理」部会が15時30分～17時30分の予定で開催される。</li> <li>・委員間の意見交換の日程は、現地視察の前に5月に入ってから実施する方向で調整する。</li> <li>・次回の運営会議は、ばるるプラザにて5月10日（火）午前9時30分から開催、第41回委員会は、5月17日（火）16時～19時に開催する。</li> <li>・次回運営会議までに、地域別部会とテーマ別部会で、委員間の議論を通じて共通認識を図っていくなかで、WGのテーマ等について検討を進めていく。</li> </ul> <p>2. 審議内容</p> <p>(1) テーマ別部会の委員構成確定およびテーマ別部会の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人数的にはバランスがとれており、所属していない部会にも出席は自由とする。個別部会での議論が全体でできるように、また、重要なテーマは、委員全員が議論できるように考えていきたい。部会での検討は、新委員との共通理解にたってもらいたい（委員長）。</li> </ul> <p>(2) 現地視察の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見書は、提言と意見書の部分、エキスの部分を説明して、意見交換していくのどうか。それから、課題（積み残しの部分）を説明すれば、到達点、課題のイメージがわくと思う。また、できれば懇親会を行いたい（委員長）。</li> <li>・勉強会的な形式で半日行い、それから行ってはどうか。</li> <li>・その方向で実施させてもらうことでどうか（委員長）。</li> </ul> <p>(3) 委員会規約第8条2項の対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合同部会に参加した際の出席者のカウントをどうするのか。少なくともカウントの仕方は定足数を満たす必要がある。また、合同部会、単独部会、テーマ別部会では原則として議決を行わない（委員長）。</li> <li>・部会等は協議の機関として位置づける。</li> </ul> <p>(4) 会議運営の改善、経費節減の提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会が経費削減を図る必要は大きく、無関心というのはいけない。次回委員会で、委員長から経費削減についての提案を行いたい（委員長）。</li> <li>・事前協議の方法を考える必要がある。委員会の際の事前協議は、運営委員会として行うことにしたい（委員長）。</li> </ul> <p>(5) 次回の各地域別部会の議事次第について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業進捗の点検およびWG設置の検討は、各地域部会での共通の審議事項である。</li> <li>・部会長にお任せすることなので、本日、決まったことを伝えて欲しい。また、どういうテーマを対象としてWGをつくるかの議論をして欲しい（委員長）。</li> </ul>	

### ■審議資料1より

第1回木津川上流部会では、審議資料1「河川整備計画進捗状況項目（実施）（調査・検討）項目」を用いて河川管理者より説明がなされた後、委員間で意見交換が行われました。以下に、資料より一部を抜粋して掲載いたします。

#### ○環境－22 縦断方向の河川形状の修復の検討（魚類の遡上・降下）

魚道現状調査、堰の上下流における生息調査や魚道内の状況を変化させて遡上状況調査を実施した。

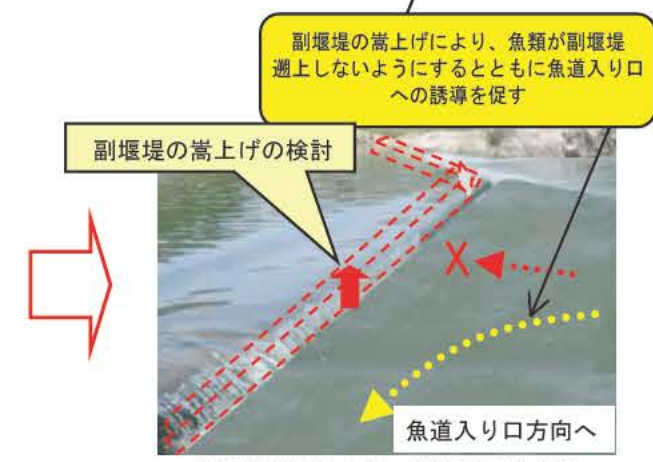
調査によって、相楽発電所取水堰において魚道の反対側の滞筋や副堰堤の高さが低いため、本堤の直下まで遡上した魚類が溜まることや魚道入り口を見出せない魚類が多いことが確認された。副堰堤の改修の必要性や魚道入り口への誘導を促す改良が必要であることがわかった。



相楽発電所取水堰堰下流の魚類の遡上経路



相楽発電所取水堰 副堰堤の現状



相楽発電所取水堰 副堰堤の改良案（イメージ）

今後も、『縦断方向の河川形状の修復』に向けて魚道全体の改修も念頭におきつつ小規模な改修で改良が可能な箇所については早期に実現していくため『木津川上流河川環境研究会』での討議を踏まえながら調査検討を実施する。

【平成17年4月20日時点】



○環境-27 魚類等の遡上・降下が可能な方策を検討

魚類等の遡上に対し、最下流に位置して、最も影響が大きいと想定される高山ダムについて、魚道配置の実効性、魚道設置効果等の検討を行った。  
高山ダムへの魚道配置については、以下の配置案について可能性の検討を行った。

- ①左岸側：左岸測地山に設置。
- ②右岸側：右岸測地山に設置。
- ③堤体：堤体を改修して設置。

また、図-2、図-3、図-4に示す魚道形式についても高山ダムへの魚道配置の可能性について検討を行った。

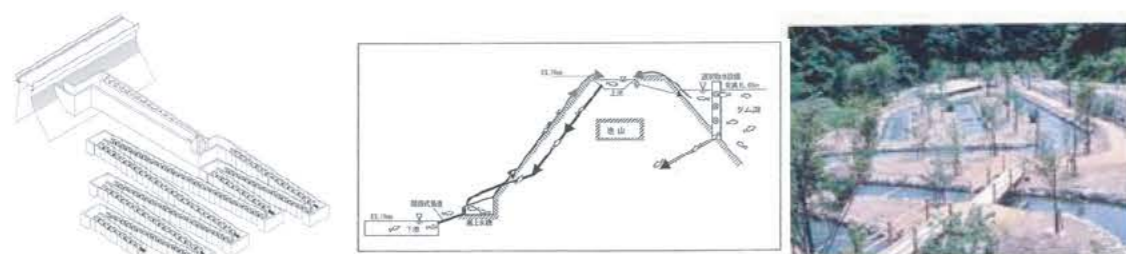
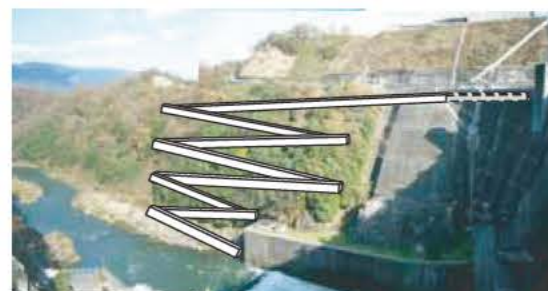


図-2 階段形式の魚道例 図-3 エアリフト式魚道の例 図-4 多自然型魚道の例

可能性の検討の結果、右岸側に階段形式の魚道を設置する案が比較的可能性のあることがわかった。



しかし、魚道を配置する場合には、以下の課題等が挙げられる。

- ①右岸側地山斜面に魚道を設置することによる新たな環境の変化。
- ②ダム周辺の植生や魚類等生息状況調査の継続。
- ③魚道出口をダム貯水池上流の流入河川にまで延ばす等の検討。
- ④環境への影響の検討、事業費等の経済比較検討。

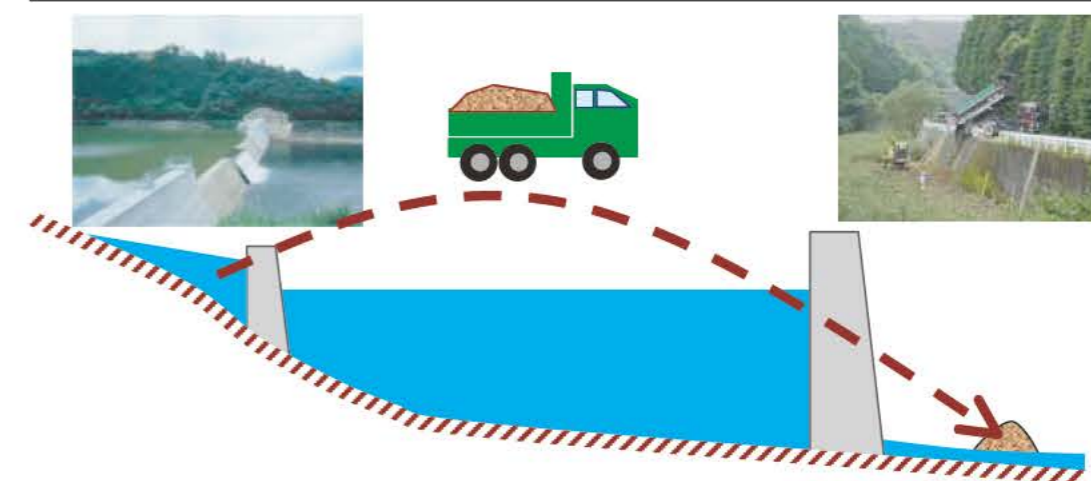
【平成17年4月20日時点】

○環境-47 土砂移動の障害を軽減するための方策を検討

●実施事例



①土砂投入前、②土砂投入、③放流により冠水、④流量提言  
投入した土砂（約190m<sup>3</sup>）は、最大48m<sup>3</sup>/sの放流により、全て掃流された。



【平成17年4月20日時点】

## 配付資料リスト

### ●第1回木津川上流部会 配付資料

資料リスト		資料請求 No
議事次第		K1-A
報告資料1	第43回運営会議結果報告	K1-B
報告資料2-1	地域別部会・テーマ別部会委員構成一覧表	K1-C
報告資料2-2	地域部会・テーマ別部会の委員名簿	K1-D
審議資料1	河川整備計画進捗状況（実施）（調査・検討） ※河川管理者提供資料	K1-E
審議資料2-1	木津川上流の課題について ※河川管理者提供資料	K1-F
審議資料2-2	上野遊水地の諸元見直しについての検討経過及び 上野地区の治水対策案についての検討経過について ※河川管理者提供資料	K1-G
審議資料2-3	木津川上流の課題について 河川環境（水質） ※河川管理者提供資料	K1-H
審議資料3	現地視察について	K1-I
その他資料	委員会における今後のスケジュール	K1-J
参考資料1	委員および一般からのご意見	K1-K
参考資料2	琵琶湖・淀川流域圏の再生計画 ※河川管理者提供資料	K1-L
参考資料3	総合的な豪雨災害対策の推進について（提言） ※河川管理者提供資料	K1-M

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP.10の「配付資料及び意見書の閲覧・入手方法」をご覧ください。

## 木津川上流部会 委員リスト

2005.4.19現在  
（五十音順、敬称略）

No.	氏名	対象分野	所属等	兼任状況
1	江頭 進治	河道形状・土砂移動	立命館大学理工学部 教授	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
2	岡田 憲夫	事業評価	京都大学防災研究所 教授	淀川部会 住民参加部会
3	荻野 芳彦	農業関係	大阪府立大学 名誉教授	淀川部会 利水・水需要管理部会
4	川上 聡	住民連携	NPO法人 全国水環境交流会 理事 木津川源流研究所 所長	淀川部会 利水・水需要管理部会
5	中村 正久	水環境	滋賀大学 環境総合研究センター 教授	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
6	水山 高久	治山・砂防	京都大学大学院農学研究科 教授	淀川部会 利水・水需要管理部会
7	三田村 緒佐武	生態系、住民連携	滋賀県立大学環境科学部 教授	琵琶湖部会 住民参加部会
8	村上 哲生	水質	名古屋女子大学 教授	猪名川部会 住民参加部会

### ●委員長・副委員長

No.	氏名	対象分野	所属等	兼任状況
-	寺田 武彦	法律	弁護士（元日弁連公害対策委員会委員長） 龍谷大学法学部 教授	-
-	今本 博健	洪水	京都大学 名誉教授 水工技術研究会 会長	淀川部会 猪名川部会 利水・水需要管理部会

### ●他部会より参加されている委員

No.	氏名	対象分野	所属等	兼任状況
-	千代延 明憲	住民連携	流域住民	淀川部会 猪名川部会 利水・水需要管理部会



## これまで開催された会議等について

第1回木津川上流部会（平成17年4月20日）までに、以下の会議が開催されています。

委員会	琵琶湖部会	淀川部会	猪名川部会
第1回 ~第6回 平成13年開催	第1回 ~第8回 平成13年開催	第1回 ~第10回 平成13年開催	第1回 ~第6回 平成13年開催
第7回 ~第15回 平成14年開催	第9回 ~第20回 平成14年開催	第11回 ~第20回 平成14年開催	第7回 ~第17回 平成14年開催
第16回 ~第27回 平成15年開催	第21回 ~第27回 平成15年開催	第21回 ~第23回 平成15年開催	第18回 ~第20回 平成15年開催
第28回 H16/2/26 (木)	第28回 H16/10/13 (水)	第24回 H16/8/25 (水)	第21回 H16/9/1 (水)
第29回 H16/5/8 (土)	第29回 H16/11/8 (月)	第25回 H16/9/17 (金)	第22回 H16/10/21 (木)
第30回 H16/6/22 (火)	第30回 H16/12/15 (水)	第26回 H16/10/19 (火)	第23回 H16/11/2 (火)
第31回 H16/7/29 (木)	第31回 H17/1/8 (土)	第27回 H16/11/30 (火)	第24回 H16/12/3 (金)
第32回 H16/8/24 (火)	第32回 H17/4/13 (水)	第28回 H16/12/18 (土)	第25回 H16/12/23 (木)
第33回 H16/9/29 (水)	環境・利用部会	第29回 H17/4/11 (月)	第26回 H17/4/14 (木)
第34回 H16/10/25 (月)	第1回 ~第7回 平成15年開催	ダムWG	3ダムサブWG
第35回 H16/11/16 (火)	治水部会	第1回 H16/7/11 (日)	第1回 H16/8/7 (土)
第36回 H16/12/20 (月)	第1回 ~第6回 平成15年開催	第2回 H16/7/18 (日)	第2回 H16/9/11 (土)
第37回 H17/1/11 (火)	利水部会	第3回 H16/7/25 (日)	第3回 H16/11/8 (月)
第38回 H17/1/22 (土)	第1回 ~第5回 平成15年開催	第4回 H16/8/19 (木)	川上ダムサブWG
第39回 H17/2/5 (土)	住民参加部会	第5回 H16/9/23 (木)	第1回 H16/8/3 (火)
第40回 H17/3/14 (月)	第1回 ~第7回 平成15年開催	第6回 H16/10/4 (月)	第2回 H16/9/3 (金)
設立会 発足会 第1回 合同懇談会	平成13年開催	第7回 H16/10/18 (月)	余野川ダムサブWG
第1回 合同勉強会 シンポジウム 拡大委員会	平成14年開催	第8回 H16/11/10 (水)	第1回 H16/8/11 (水)
提言説明会	平成15年開催	第9回 H16/12/1 (水)	第2回 H16/9/22 (水)
その他		第10回 H16/12/5 (日)	
		しっかりしてや！！ 流域委員会	H16/2/28 (土)
		ファシリテーターとの 検討会	H16/5/15 (土)
		大戸川、天瀬ダム意見交換	H16/9/26 (日)
		丹生ダム意見交換会	H16/9/27 (月)
		住民の意見を聞く会	H16/12/5 (日)

## 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。  
 ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。  
 ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

### ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

### 郵送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。（希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。）ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

### 閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

### 「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。  
 ※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。

## ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。  
 ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、下記までお寄せ下さい。  
 ※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。  
 ※ご意見を公表する場合には、団体・会社名（または居住地）とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。  
 ※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail [yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp](mailto:yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp)

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務  
みずほ情報総研（株）



---

## 淀川水系流域委員会 木津川上流部会ニュース No.1

---

2005年5月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社

.....  
研究員：吉岡、篠田、鈴木、熊谷、松本

事務担当：山根

---

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-2-1 (大阪富士ビル8階)

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E-mail: [yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp](mailto:yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp)

●流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統合管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源機構 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川計画室／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木局河川計画課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

\*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。